みんなの健康ラジオ

『妊娠中のサイトメガロウイルス感染』

（2025年8月7日放送）

横浜市産婦人科医会

あおのウイメンズクリニック

青野　一則

サイトメガロウイルス感染症とは

- 小児期の感染が多く、予防するワクチンはない
- 主に唾液、鼻汁、尿などから感染する
  母乳、産道、輸血、性交等による感染もある
- 健康な人が感染しても問題なく不顕性感染も多い
  妊婦が感染すると胎児に異常が出ることがある
- 一度感染するとウイルスは生涯にわたり体内にとどまる
- 抗体も終生免疫として持続するが、抗体があっても体内のウイルスの再活性化や再感染で胎児への感染は起こりうる

妊婦への感染

- 妊娠前の成人女性の抗体陽性率（感染既往率）⇒約70％

- 日本における胎児への先天感染の頻度は約0.3％、
  症候性感染は約0.1％
  ⇒新生児のおよそ300人に1人が胎内感染している

- 胎内感染をした胎児、新生児
  20％は顕性感染（出生時に所見あり）
  ⇒このうち90％に後障害が残る
  80％は不顕性感染（出生時に所見なし）
  ⇒10％にのちに難聴や発達障害等が出現
  数年後に気付かれることもある

胎児への先天性感染の診断

- 顕性感染
  ⇒胎児期の超音波検査や生後の聴力検査などから疑う
  不顕性感染
  ⇒検査所見や臨床症状がなく診断できない
  しかし、早期発見によるフォローが予後の改善に重要

- 妊娠中の母親、生後の児の抗体検査
  ⇒参考にはなるが偽陽性や偽陰性もあり不確実

- 現在最も有効な診断法
  ⇒生後3週間以内の児の尿からウイルスの核酸を
  検出する方法
  スクリーニング検査（自費）として行われるように
  なってきている